

【科目名】理学療法評価学演習		【担当教員】松林 義人、 理学療法学専攻教員 (メールアドレス) matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜日以外の在室時
【授業区分】 専門分野 (理学療法評価学)	【授業コード】 3-16-0585-0-1	
【開講時期】3 年次 前期	【選択必修】必修	
【単位数】1 単位	【コマ数】8 コマ	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 1. この科目では 1・2 年次に修得した基礎医学・臨床医学・理学療法専門科目すべての知識が必須です。 2. 臨床評価実習を遂行するためには、この科目の修得は必須です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 1. 臨床評価実習を想定した服装・マナーで臨むこと。		
【講義概要】 (目的) 症例に対して、その病態像を把握し、症例に即した適切な理学療法評価を選択でき、実施できるようになること、また症例の評価結果より症例に即した問題点を抽出し、統合と解釈を述べるができるようになることを目的とする。さらに、臨床評価実習に必要な知識を修得することを目的とする。 (方法) 1. 事例を提示し、評価の実施と症例レポートを作成する。 2. 国家試験に準じた基礎 (解剖学・生理学・運動学) と理学療法評価学の試験を実施する。		
【一般教育目標(GIO)】 1. 各疾患に応じた理学療法を選択・実施し、問題点を抽出ならびに統合と解釈を述べるができる。 2. 臨床評価実習を実施するにあたり、必要な知識を身につける。		
【行動目標(SBO)】 1. 症例に即した理学療法評価を円滑に実施することができる。 2. 基礎医学ならびに臨床医学、理学療法評価学について積極的に取り組む姿勢をもつことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし (1・2 年次に購入した基礎医学・理学療法分野全般の教科書が必要)		
【参考書】 1. 内山 靖・『標準理学療法学専門分野 理学療法評価学第 2 版』医学書院, 2004 年. ¥6,090 2. ヘレン・J. ヒスロップ 津山直一 他著・『新・徒手筋力検査法 第 9 版』協同医書, 2003 年. ¥6,825 3. 田崎義昭 斎藤佳雄・『ベッドサイドの神経の診かた 改訂第 17 版』南山堂, 2010 年. ¥7,560 4. 細田多穂 柳沢 健・『理学療法ハンドブック 改訂第 3 版』協同医書, 2005 年. ¥21,000		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程の GPA 制度に従う。 1. 症例レポートならびに筆記試験 2. 国家試験に準じた基礎 (解剖学・生理学・運動学) と理学療法評価学に対する試験 (3 回実施する)		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成果発 表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		60	0	30	0	10	0	0	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	40	0	10	0	10	0	0	60
	思考・推論・創造の力	20	0	20	0	0	0	0	40
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営 方法			学修課題(予習・復習)	時 間 (分)			
1	オリエンテーション 大腿骨頸部骨折患者に対する理学療法評価の 選択	グループワー ク			大腿骨頸部骨折の病態像 を理解しておくこと。	60			
2	大腿骨頸部骨折患者に対する理学療法の評価 の実施 1	実技			レポート提出 事前に評価の流れを実施 しておくこと。	60			
3	大腿骨頸部骨折患者に対する理学療法の評価 の実施 2	実技				60			
4	大腿骨頸部骨折患者に対する問題点抽出と統 合と解釈	実技・講義				60			
5	片麻痺患者に対する理学療法評価の選択	グループワー ク			脳血管障害の病態像につ いて理解しておくこと。	60			
6	片麻痺患者に対する理学療法評価の実施 1	実技			レポート提出 事前に評価の流れを実施 しておくこと。	60			
7	片麻痺患者に対する理学療法評価の実施 2	実技				60			
8	片麻痺患者に対する問題点抽出と統合と解釈 まとめ	実技・講義				60			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の 3 倍)に含むべき時間を示します。